

# 株式の状況

## 株式数及び株主数 (2022年3月31日現在)

発行可能株式総数	7,800,000株
発行済株式総数	1,952,900株*
株主数	855名

※ 2022年4月1日付で1:2の割合で株式分割を行いました。分割後の発行済株式総数は3,905,800株となります。

## 大株主 (2022年3月31日現在)

	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社アルゴグラフィックス	990,000	50.7
セイコーインスツル株式会社	408,000	20.9
ジーダット従業員持株会	39,200	2.0
久保田 正明	30,000	1.5
株式会社SBI証券	12,300	0.6
島田 照夫	11,800	0.6
楽天証券株式会社	11,500	0.6
尾崎 敬郎	10,000	0.5
JPモルガン証券株式会社	9,400	0.5
若林 敬三	9,300	0.5

## 所有者別状況 (2022年3月31日現在)

所有者区分	持株数(株)	持株比率(%)
金融機関	5,700	0.3
証券会社	43,006	2.2
その他国内法人	1,416,300	72.5
外国法人等	33,600	1.7
個人・その他	424,058	21.7
自己名義株式	30,236	1.6
計	1,952,900	100.0



本社 東京都中央区湊1-1-12 HSB鐵砲洲 Tel: 03-6262-8400 (代)  
 当冊子に関するお問合せ先 株式会社ジーダット 経営企画部 E-mail: corporate.planning1@jedat.co.jp

## 株主メモ

上場市場	東京証券取引所 スタンダード市場
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当基準日	3月31日
株式の売買単位	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社

	証券会社等に 口座をお持ちの場合	証券会社等に 口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵送物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先	お取引の証券会社等 になります。	フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)		みずほ信託銀行 本店及び全国各支店(※) (※)トラストラウンジではお取扱で きませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行(※)及びみずほ銀行の本店及び全国各支店 (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

電子公告とし、次の当社ホームページに掲載します。  
 (https://www.jedat.co.jp/)  
 ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

## 株式分割

当社は、投資単位当たりの金額を引き下げることにより、より一層投資しやすい環境を整えることで、当社株式の流動性の向上と投資家層の拡大を図ることを目的として2022年4月1日付で当社普通株式1株を2株に分割いたしました。

表紙の絵は、江戸時代に歌川広重が描いた鐵砲洲の情景です。江戸の入り口として日本の全国各地から廻船が集まった歴史あるこの地から、JEDATは日本EDAの最先端技術を世界へ発信いたします。

**UD FONT** 見やすく読みまちがえにくい  
 ユニバーサルデザインフォント  
 を採用しています。



株式会社ジーダット

証券コード:3841

# 第20期 株主通信

自2021年4月1日 至2022年3月31日



歌川広重「鐵砲洲側真景」国立国会図書館所蔵



JEDAT は Japan EDA Technologies の略です。

私たちは、日本の EDA のリーダーとして、  
電子産業の発展に貢献したいと考えています。

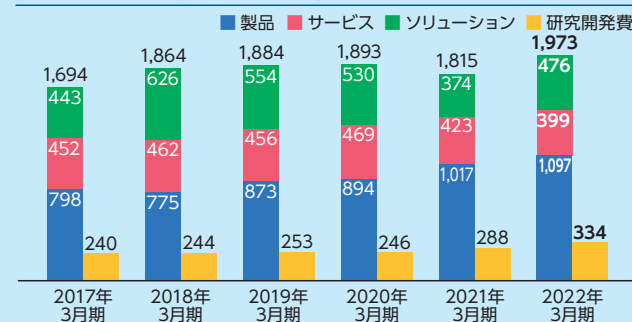
EDA とは Electronic Design Automation の略です。

電子機器や電子部品の設計作業を支援、検証するソフトウェア（電子系 CAD）で、  
設計作業には不可欠なツールであり、設計期間の短縮や設計品質の向上を実現します。

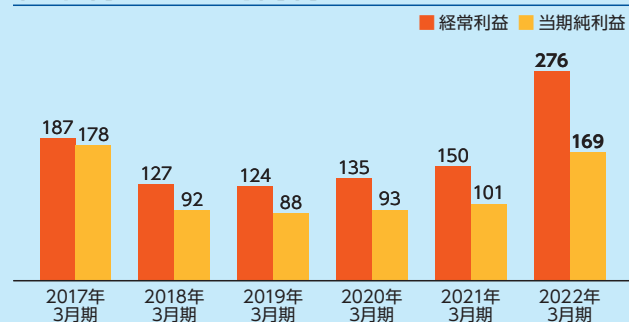
## 財務ハイライト

(単位：百万円)

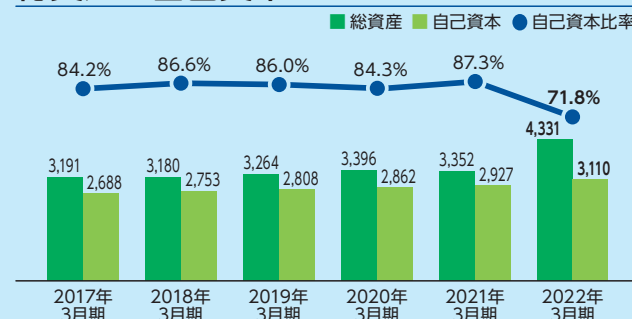
### 売上高・研究開発費



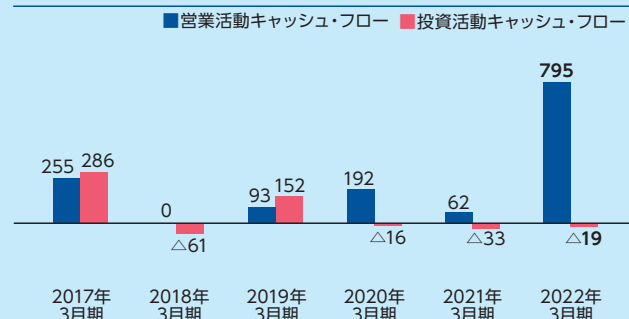
### 経常利益・当期純利益



### 総資産・自己資本



### キャッシュ・フロー



## ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素より当社に格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当第20期における当社の売上高は、前期比8.7%増となる19億73百万円となりました。海外市場における大型商談の獲得、また自社開発製品売上の伸長による利益率の向上によって、営業利益は前期比63.0%増の2億18百万円となりました。

当事業年度における当社の活動といたしましては、主力製品であるSX-MeisterのVer.12.0をリリース、アナログLSIの設計自動化機能を拡張し、パワーデバイス向け自動レイアウトツールを発売するなど、機能拡張を継続いたしました。また、次世代のEDA開発技術者の育成に向けた「JEDAT

サーキットデザインラボ」を有明工業高等専門学校と設立し、産学連携の促進を進めてまいりました。



代表取締役社長

松尾和利

当社を取り巻く環境といたしましては、世界的な「半導体不足」はまだまだ続き、製造設備への投資活動は今後も続伸し、当社の事業で

ある設計設備への投資もようやく拡大基調へ向かうものと考えております。またFPD（Flat Panel Display）等の市場におきましては、テレビ・IT機器用は需要が低迷するものの、車載・産業機器用は堅調に推移し、新技術パネル・異形表示パネルの研究開発は、今後活況になるものと見込んでおります。

そのような中で当社は、引き続き重点テーマに向けた開発を継続し、アナログLSI、パワーデバイスに向けたコア製品の競争力・販売力を強化してまいります。また、社内の新技術開発体制を刷新、外部技術の導入・活用を促進し、新製品の開発を加速します。営業活動におきましては、リモート時代に即した情報発信力を強化しながら、顧客との対話を促進・新顧客層の開拓に努めてまいります。海外市場向け売上拡大の施策といたしまして、代理店体制の見直しにより海外パートナーとの連携を強化し、CADのOSとしての当社ツールの拡販「プラットフォーム戦略」を促進、ステップアップを図ります。また、デバイス設計受託におきましては、EDA開発との連携による設計ツールのブラッシュアップを強化しながら、重点顧客を深耕し、新規顧客を開拓してまいります。

2022年4月4日の東京証券取引所市場再編により、当社は東証スタンダード市場に上場いたしました。株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 特集 営業技術本部 技術3部長に聞く

# パワーデバイス向け自動レイアウトツール PowerGeneratorへの期待

SX-Meister PowerGeneratorは、ジーダットが2021年11月に発表した、パワーデバイス (IGBT/RC-IGBT/SiC) 向けのチップレイアウト自動生成ツールです。

設計効率の向上が難しいとされてきたパワーデバイスの設計においてジーダットのPowerGeneratorが果たす役割について、営業技術本部 技術3部長 西岡 克也に聞きました。

## パワーデバイスとは何ですか？

パワーデバイスそのものを目にするのは滅多にないと思いますが、民生品から産業分野まで、幅広く使われている電子部品です。身近なところでは、家庭で使われるTVやPC、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、太陽光発電機器、自動車 (EV、HV) などで使われています。

パワーデバイスの優劣は、「如何に電機を効率よく使用できるか」に効果を発揮するため、最終製品の省エネ性能に大きく影響しますので、大電流・高電圧を扱う必要がある産業分野において重要なデバイスのひとつとして扱われています。

## パワーデバイスは、普通の半導体と何が違うのですか？

パワーデバイスは特別な構造をもっていて、普通の半導体より大きな電流・高い電圧を扱うことができる半導体です。通常の半導体であれば壊れてしまうような、高い電圧・大きな電流を扱う用途で使用

されています。パワーデバイスには、大別して整流を行う「パワーダイオード」と電気信号のON/OFFや増幅を行う「パワートランジスタ」があります。さらにパワートランジスタも、その構造の違いから、パワーMOSFET、IGBT、RC-IGBT、SiC等の種類があります。

## パワーデバイスの設計にはどんな課題がありますか？

設計の場面において普通の半導体との大きな違いは、パワーデバイスの設計には回路図 (ICの設計図) が無いことです。それだけ回路としては単純なのですが、基本的な構造とレイアウトの出来栄で性能が決まってしまう。

パワーデバイスのレイアウトは、構成する要素が多くかつ複雑ですので、従来の自動レイアウトツールは適用できず、人手による設計が主流でした。そのため、設計効率化が進んでいないこと、また回路図があることを前提とするポストレイアウトシミュレーション手法の適用ができないために、レイアウト

営業技術本部  
技術3部長  
西岡 克也



設計と試作評価を繰り返して目標とするチップサイズと性能を両立させなくてはならず、設計効率の向上が課題となっていました。

## PowerGeneratorとはどんなツールですか？

PowerGeneratorは、ジーダットが2021年11月に発売を開始した、パワーデバイスのうちパワートランジスタのレイアウトを自動的に生成できる設計ツールです。具体的には、事前に用意された複数の部品から構成されるパワーデバイスのチップを、設計者のイメージ通りに、高速で並べることができます。ジーダットのレイアウトエディタ：SX-Meister Ismo上で動作します。

## PowerGeneratorの一番の強みは何ですか？

従来、パワーデバイスのレイアウト自動化を狙ったEDAツールの汎用製品はありませんでした。PowerGeneratorは、パワーデバイスのレイアウト

自動化を実現した業界初のツールとなるのではないのでしょうか。シンプルな設定で、人手設計に近いレイアウトを高速に生成できることが最大の強みです。先行ユーザー様での実績として、従来50時間かかっていた設計作業が、PowerGeneratorの導入によって5分で完了したという事例を、当社のプライベートセミナーで発表いただいています。

## ジーダットの既存の設計ツールとの相乗効果はありますか？

PowerGeneratorは、ジーダットが従来から販売している、パワーデバイス的高速/高精度電源解析ツール：SX-Meister PowerVoltと組み合わせてご利用いただくことで、短期間でレイアウト設計から特性確認が可能となり、試作コスト削減・設計期間増加リスクの大幅な削減効果を期待できます。

## PowerGeneratorの将来像について教えてください

直近では、自動レイアウト後の修正作業を容易にするための機能追加・使い勝手向上等を予定しています。現在、複数の既存・新規のお客様にて、導入のための評価をいただく予定がありますが、お客様それぞれの設計環境でPowerGeneratorをお使いいただくための準備作業をより簡単にすることも課題のひとつです。将来的には、お客様のもつ各社独特のノウハウを簡単にツールに反映できるように考えています。

現在、カーボンニュートラルに向けた動きが加速する中で、パワーデバイスはキーデバイスとして注目されつつあります。パワー半導体は、現在、日本の半導体企業が健闘している分野ですので、多くのお客様にご利用いただき、お客様とともに我々も成長したいと願っています。

## ● 大型商談獲得と利益率の向上、投資事業組合運用益等の営業外収益により増収増益

当事業年度における、当社の主要顧客である電子部品業界の状況は、半導体に対する旺盛な需要が世界的に高まり続けた結果、半導体不足のために最終製品の出荷が滞る事態が頻発しており、その結果特に半導体の製造分野への設備投資が盛んに実施されています。こういった半導体製造分野における好況の波は、当社の顧客が多数存在する設計分野にも到達しており、設計品種の拡大や設計設備への投資拡大の傾向が見受けられるまでになって来ました。しかしながら、世界及び日本の経済は、新型コロナウイルス感染拡大のダメージから回復しつつある中、欧州で勃発した大規模な紛争及びそれに対する経済制裁の影響等により、先行きが極めて不透明な状態に置かれており、予断を許さない状況が継続しております。

このような状況の中当社は、EDA製品の研究開発活動に社内外のリソースを集約することにより、当社主力製品SX-Meisterの拡張オプションとして、アナログ半導体向け設計自動化ツールのACC (Analog Chip Compiler) を順次リリースするとともに、自動車のEV

化に伴い需要が急速に拡大しているパワーデバイスの設計を強力にサポートするPower Generatorをリリースしました。販売促進活動においては、新型コロナウイルス感染症による厳しい社会環境下において、状況により「Web」と「リアル」を使い分けつつ、あるいは複合（ハイブリッド）によるセミナー開催等の情報発信や営業活動を機動的に実施しました。デバイス設計受託分野では、拡大している設計委託需要に顧客層の拡大効果も重なった結果、順調に売上が伸長しました。また海外市場においては、前事業年度から慎重に進めておりました大型商談を、無事にクローリングして期間按分による計上を開始しました。一方固定費に関しては、コロナ禍による移動制限等の影響で低めに推移したことに加えて、第3四半期までは予算の施行を制限していたこと等により、抑え気味の結果となりました。

また当事業年度から当社は、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)を適用

(単位：百万円)

	2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期		
	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	対前期比
売上高	1,884	100.0%	1,893	100.0%	1,815	100.0%	1,973	100.0%	+8.7%
売上総利益	1,114	59.2%	1,097	57.9%	1,136	62.6%	1,264	64.1%	+11.2%
販売費及び一般管理費	998	53.0%	966	51.1%	1,002	55.2%	1,045	53.0%	+4.3%
営業利益	116	6.2%	130	6.9%	134	7.4%	218	11.1%	+63.0%
経常利益	124	6.6%	135	7.2%	150	8.3%	276	14.0%	+83.5%
当期純利益	88	4.7%	93	4.9%	101	5.6%	169	8.6%	+66.8%

し、特にTBL (Time Based License) 製品等の売上計上方法を、契約期間に亘る月次按分計上からライセンス部分相当額の一括計上に変更しました。この会計基準変更の影響は、特に第1四半期において一時的に大きく顕在化しましたが、年間を通じて概ね平準化されております。

これらの活動の結果、当事業年度の売上高は19億

## ● 海外におけるSX-Meisterの売上が伸長、デバイス設計受託も急速に復調

製品売上高は10億97百万円(前期比7.8%増)となりました。製品売上高増加の主な理由は、特に海外において主力製品であるSX-Meisterの売上高が順調に伸長したことによるものであります。引き続き国内外の市場に向けた積極的な営業活動を展開してまいります。

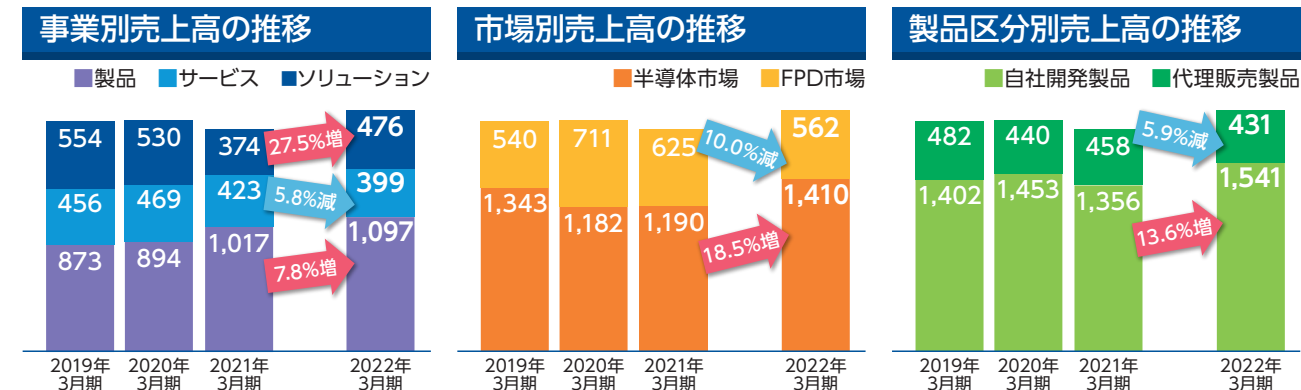
保守サービス売上高は3億99百万円(前期比5.8%減)となりました。保守サービス売上高が減少した主な理由は、国内市場の縮小傾向に逆行するべく、積極的な新機能提案活動に加えて保守契約の締結促進活動を実施しましたが、新型コロナウイルス感染拡大や米中貿易摩擦等の影響も若干受けて、保守契約の

73百万円(前期比8.7%増)となりました。営業利益は、大型商談獲得と全般的な利益率向上に、抑え気味の固定費の効果が重畳して2億18百万円(前期比63.0%増)となりました。経常利益は、投資事業組合運用益と為替差益及び助成金収入等を計上した結果2億76百万円(前期比83.5%増)となり、当期純利益は1億69百万円(前期比66.8%増)となりました。

減少をカバーし切れなかったことによるものであります。引き続き顧客ニーズに合わせたサポート・サービスの向上に努めてまいります。

ソリューション売上高(受託開発等)は4億76百万円(前期比27.5%増)となりました。ソリューション売上高が大幅に増加した主な理由は、前事業年度において、デバイス設計受託事業の業績が、新型コロナウイルス感染拡大や米中貿易摩擦等の影響により一時的に大きく落ち込みましたが、当事業年度に入り、デバイス設計委託需要の拡大を受けて、急速に回復してきたことによるものであります。

(単位：百万円)



## 貸借対照表

(単位:千円)

科目	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	3,142,409	4,055,895
<b>1 2</b> 現金及び預金	2,713,540	3,456,311
受取手形	1,100	—
電子記録債権	172,593	186,072
売掛金	171,793	367,870
仕掛品	3,788	3,049
原材料	1,330	1,411
前渡金	39,923	10,314
前払費用	20,863	23,196
その他	17,477	7,669
固定資産	209,808	275,645
有形固定資産	46,258	45,238
無形固定資産	7,973	6,046
投資その他の資産	155,577	224,360
投資有価証券	79,931	108,472
繰延税金資産	33,976	69,006
その他	41,669	46,882
資産合計	3,352,218	4,331,540

### 1 現金及び預金と現金及び現金同等物の期末残高

「現金及び現金同等物の期末残高」と貸借対照表「現金及び預金」との差異は、主に預入期間3ヶ月を超える定期預金9億円等によるものであります。

科目	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債	418,317	1,214,298
買掛金	31,692	107,503
未払金	42,660	55,000
未払費用	31,793	41,089
未払法人税等	34,205	66,332
<b>2</b> 前受金	189,004	833,280
預り金	8,574	16,118
賞与引当金	76,646	87,563
その他	3,740	7,410
固定負債	6,310	6,310
資産除去債務	6,310	6,310
負債合計	424,627	1,220,608
<b>純資産の部</b>		
株主資本	2,927,443	3,110,820
資本金	760,982	761,496
資本剰余金	891,901	892,415
利益剰余金	1,303,106	1,485,548
自己株式	△ 28,547	△ 28,639
新株予約権	147	111
純資産合計	2,927,591	3,110,932
負債純資産合計	3,352,218	4,331,540

### 2 現金及び預金と前受金

「現金及び預金」の大幅な増加は大型商談の前受金等によるものであります。

## 損益計算書

(単位:千円)

科目	前事業年度 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)	当事業年度 (自2021年4月1日 至2022年3月31日)
売上高	1,815,440	1,973,334
売上原価	678,586	709,062
売上総利益	1,136,854	1,264,272
販売費及び一般管理費	1,002,643	1,045,489
営業利益	134,210	218,783
営業外収益	17,351	57,670
営業外費用	890	0
経常利益	150,671	276,454
税引前当期純利益	150,671	276,454
法人税、住民税及び事業税	45,630	164,985
法人税等調整額	3,583	△57,804
当期純利益	101,457	169,272

## 株主資本等変動計算書

(単位:千円)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本合計	新株予約権	純資産合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計				
2021年4月1日残高	760,982	891,533	368	891,901	1,303,106	1,303,106	△28,547	2,927,443	147	2,927,591
会計方針変更による累積的影響額					51,603	51,603		51,603		51,603
遡及処理後当期首残高	760,982	891,533	368	891,901	1,354,709	1,354,709	△28,547	2,979,047	147	2,979,194
当期変動額										
新株予約権の行使	513	513		513				1,027	△36	991
剰余金の配当					△38,434	△38,434		△38,434		△38,434
当期純利益					169,272	169,272		169,272		169,272
自己株式の取得							△92	△92		△92
当期変動額合計	513	513	—	513	130,838	130,838	△92	131,773	△36	131,737
2022年3月31日残高	761,496	892,047	368	892,415	1,485,548	1,485,548	△28,639	3,110,820	111	3,110,932

## キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	前事業年度 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)	当事業年度 (自2021年4月1日 至2022年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	62,727	795,929
投資活動によるキャッシュ・フロー	△33,664	△19,744
財務活動によるキャッシュ・フロー	△36,771	△37,535
現金及び現金同等物に係る換算差額	283	1,198
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△7,426	739,848
現金及び現金同等物の期首残高	1,793,286	1,785,860
<b>1</b> 現金及び現金同等物の期末残高	1,785,860	2,525,708

### 1株当たり情報

1株当たり純資産	808円99銭
1株当たり当期純利益	44円04銭

※ 2022年4月1日付で1:2の割合で株式分割を行いました。当事業年度の期首に株式分割をしたと仮定して1株当たり純資産及び1株当たり当期純利益を算定しております。



## トピックス |

### ● ジーダット、弘前大学大学院理工学研究科と車載半導体デバイスの信頼性の研究に関して提携強化

2021年5月、ジーダットは、車載半導体デバイスの信頼性をシミュレーションにより検証するシステムの研究強化のため、国立大学法人弘前大学との共同研究契約を更新しました。弘前大学大学院理工学研究科における既発表の研究成果をもとに、従来から取り組んできた、熱・電気連成解析によるデバイス寿命予測の適用拡大を目指します。また新たに、パワーデバイス過渡応答特性の再現性向上、ラッチアップ検証のための寄生素子モデリングなどに取り組み、ジーダットのPowerVoltによる電気解析、熱解析機能を用いて、半導体デバイスの物理設計データからデバイスの信頼性問題を包括的に予測、予知、改善するシステムの構築を目指した共同研究を推進します。

### ● ジーダット、北九州市立大学とアナログLSIレイアウトの自動化に関する共同研究を開始

2021年5月、ジーダットは公立大学法人北九州市立大学とアナログLSI設計における配置の自動化に関する共同研究を開始しました。同大学の中武教授との共同研究により、従来手作業で、試行錯誤を行いながら省面積かつ制約を遵守したアナログ配置を、回路情報を参考にしながら、自動で最適な配置を可能にするアルゴリズムを研究します。本研究では、大規模なミックスドシグナルにおいて、ブロックレベルからチップレベルを同時にかつ高速で扱うことで、制約を守った上で省面積となる、全体最適な配置を目指し、今までの人手によるアナログ設計フローを刷新することを目指します。

### ● 有明高専とジーダット、マッチングラボを設立

2021年9月、独立行政法人国立高等専門学校機構 有明工業高等専門学校とジーダットは、効率的なアナログ回路設計・学習を支援するためのプログラムの研究・開発を行うことを目的としたマッチングラボ『JEDAT サーキットデザインラボ』を開設しました。有明高専ICLabの電子回路の専門教員のもと、JEDATのアナログ回路設計用のEDAツールを活用して、回路設計能力(サーキットデザイン)とEDAツール拡張能力(プログラミング)の双方を兼ね備えたEDA開発技術者の育成手法について研究します。IoTやAIを活用するためには様々な情報をセンシングするアナログ回路が不可欠であり、『JEDAT サーキットデザインラボ』をきっかけに、日本が再び電子立国として世界と戦うための人財を育成する教育システムの構築を目指します。



## メディア出演情報 |

ジーダット代表取締役社長 松尾和利が、ラジオNIKKEI「企業トップが語る！威風堂々」にゲスト出演いたしました。

- **番組名**：「企業トップが語る！威風堂々」
- **放送メディア**：ラジオNIKKEI 第1
- **放送日時**：2022年4月6日(水) 16:40～17:00
- **番組ウェブサイト**：<http://market.radionikkei.jp/ifuodo/20220406.html>

\*リンク先ページ右「いつも聴く！ポッドキャスト」過去のアーカイブから2022年4月6日放送分をお聴きいただけます。



## 会社概要/役員 |

(2022年6月15日現在)

会社概要	
商号	株式会社ジーダット (Jedat Inc.)
所在地	〒104-0043 東京都中央区湊1-1-12 HSB鐵砲洲
代表者	代表取締役社長 松尾 和利
営業開始	2004年2月2日
資本金	761,496,260円 (2022年3月31日現在)
事業内容	電子回路・半導体集積回路・液晶モジュール等設計支援のためのソフトウェア開発・販売及びコンサルティング・半導体集積回路の設計受託

役員	
代表取締役	松尾 和利
取締役	太田 裕彦
取締役	藤澤 義磨
取締役	長谷部 邦雄
社外取締役	吉富 巧
社外取締役	渥美 滋
監査役(常勤)	小川 泰
社外監査役	日比野 好恵
社外監査役	小松 弘明